

事業事前評価表

国際協力機構南アジア部南アジア第四課

1. 基本情報

- (1) 国名：バングラデシュ人民共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：チョットグラム管区コックスバザール県（人口約 230 万人）
- (3) 案件名：コックスバザール県におけるバングラデシュ漁業開発公社水揚場整備計画（The Project for the Improvement of Fish Landing Center of Bangladesh Fisheries Development Corporation in Cox's Bazar District）
G/A 締結日：2024 年 3 月 28 日

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における水産セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
バングラデシュ人民共和国では、全人口の 11%（約 1,800 万人）が水産セクターに従事しており、輸出額は縫製業に次いで多い（出典：バングラデシュ統計局、2019）。ベンガル湾に面したコックスバザール県は海面漁業（主要魚種：ヒルサ¹等）が盛んで、当国一の漁業水揚量を誇る。コックスバザールの人口の 18%は漁業に従事しており同地の主要産業である（出典：FAO、2020）一方で、棧橋などの水産インフラ未整備により流通に時間がかかるため適切な品質保持ができず、漁獲物の約 30～33%が劣化して食用に適さないとされている（出典：Rabbani、2017）。

バングラデシュ漁業開発公社（以下、「BFDC」という。）は漁業畜産省傘下にて水産部門の発展を目的とした公社であり、全国で水産施設を整備するとともに、水産業に関わる経営や漁業振興に対する幅広い権限を有し、水産資源の開発、魚や水産加工品の輸送、加工などの事業を行っている。コックスバザール県にある BFDC 水産センターは、コックスバザール県内の漁獲量の約 85%を占めるショードール郡に位置する水揚げ・流通拠点であるが（出典：WorldFish/JICA、2021）、BFDC 水産センターでは、河岸侵食の進行により 2012 年頃より棧橋、荷捌所および岸壁一部が崩壊し、現在も岸壁基礎部分の崩落が進行している。このため、現在水揚げ作業は既存浮棧橋及び緩傾斜護岸を経由して、崩壊していない荷捌所を利用して行われており、人、漁獲物、車両などの動線が錯綜し、汚染された浅井戸水や川の水を使っていることから非効率で不衛生な水揚げ作業を強いられている。また、2017 年 8 月以降、隣国ミャンマーからコックスバザール県への避難民流入の影響により、生活物資の高騰や日雇い

¹ バングラデシュの国魚。ニシン科。

労働機会の減少、賃金の低下等が生じており、零細漁業従事者を含む避難民受け入れにかかる地域住民（ホストコミュニティ）への貧困削減対策のニーズが高まっている。上記の課題に対応するため、BFDC 水産センターを復旧することを目的とした要請が我が国になされた。

当国政府は、「第 8 次 5 か年計画」（2020/21～2024/25 年度）にて、海洋資源を活用した新たな経済成長を目指す「ブルーエコノミー」を推進し、漁獲物の廃棄率の削減や漁民の生計向上・貧困削減に取り組むとしている。また、2023 年 4 月の両国首脳会談時に発表された「戦略的パートナーシップに関する日バングラデシュ共同声明」において、避難民流入の影響を受けるコックスバザール県のホストコミュニティ支援の必要性も確認されている。

「コックスバザール県におけるバングラデシュ漁業開発公社水揚場整備計画」（以下「本事業」という。）は、コックスバザール県の BFDC 水産センターにて水揚げ場等施設及び関連機材等の整備を行い、漁獲物の水揚効率の向上、衛生的な取扱いによる漁獲物の品質向上を図ることで、漁獲物の品質向上や廃棄率の減少、及びそれに伴う BFDC 水産センターの棧橋や荷捌所を利用するホストコミュニティの漁業従事者の生計向上等に資するもの。

（２）水産セクター開発に対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置付け

対バングラデシュ人民共和国国別開発協力方針（2018 年 2 月）では、重点分野の「社会脆弱性の克服」にむけて、農村部の生活環境改善・生計向上に資する支援を行い、貧困削減に貢献する方針が示されている。また、バングラデシュ人民共和国 JICA 国別分析ペーパー（2023 年 3 月）では、農村部の貧困率が依然として高いことが指摘されており、本事業を通じた漁獲物の品質向上及びそれに伴う漁業従事者の生計向上と貧困削減への寄与、加えて、ミャンマーからの避難民流入により負担が増加しているホストコミュニティへの支援にも繋がる。加えて、本事業は技術協力プロジェクト「ベンガル湾沿岸地域漁村振興プロジェクト」（2022 年～2027 年）との相乗効果が見込めることから、本事業はこれら方針・分析に合致する。

本事業は JICA 課題別事業戦略（グローバル・アジェンダ）「農業・農村開発（持続可能な食料システム）」の主要な取組「水産ブルーエコノミー振興」にも位置付けられ、水産フードバリューチェーンの強化を通じ、当国の水産業の振興にも寄与する。また、ブルーエコノミーの発展は、2023 年 4 月 26 日付戦略的パートナーシップに関する日バングラデシュ

共同声明においても言及されており、両国間にて重要視されている。加えて、本事業は「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）のための新たなプラン」（2023 年 3 月）における、第二の柱「インド太平洋流の課題対処」の実現に資するものである。

更に、本事業は漁獲物の水揚げ効率及び品質向上により、対象地域における水産業従事者の生産性向上や流通水産物の損失減少、ホストコミュニティの生計向上にも寄与するため、SDGs のゴール 1「あらゆる場所であらゆる形の貧困を終わらせる」2「飢餓を終わらせ、食糧安全保障と栄養改善を達成し、持続可能な農業を促進する」及びゴール 14「持続可能な開発のために海洋、海、海洋資源を保全し、持続可能に利用する」への貢献が期待される。

（３）他の援助機関の対応

アメリカ国際開発庁は「Enhanced Coastal Fisheries in Bangladesh II（ECOFISH II）」（技術協力。2022 年 6 月終了）の下、BFDC 水産センターにおいて、水揚げ施設の清掃活動や利用者への研修等を実施した。また、世界銀行の「Sustainable Coastal and Marine Fisheries Project」（2019 年～2025 年）が実施されている。

3. 事業概要

（１）事業概要

① 事業の目的

本事業は、コックスバザール県の BFDC 水産センターにおいて、水揚げ場等施設、関連機材の整備を行うことにより、漁獲物の水揚げ効率の向上、衛生的な取扱いによる漁獲物の品質向上を図り、もって同県の水産業従事者の生産性向上と流通水産物の損失減少、ホストコミュニティの生計向上に寄与するもの。

② 事業内容

ア）施設、機材等の内容

【施設】護岸（約 70m）、浮棧橋 2 基（全長約 26m×幅約 4m）、連絡橋 2 基（全長約 32m×幅約 3m）、鮮魚荷捌所棟、トレーダー事務所棟、職員住宅（1 棟）、トイレ棟、ゲートポスト/電気室、料金収集所、ごみ置き場等（総延床面積約 6,300 m²）、深井戸

【機材】鮮魚洗浄槽（18 個）、洗浄・運搬バスケット（180 個）、パレット（140 枚）、クーラーボックス（360 個）等

イ）コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工・調達監理

ソフトコンポーネント：鮮魚取扱い研修指導、衛生管理研修指導

③ 本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者：BFDC 水産センターを利用する船主、漁民、流通業者、各作業労働者等 約 2,000 人／日

最終受益者：鮮魚の購入者、消費者 約 20 万人

（２）総事業費

総事業費 2,461 百万円（概算協力額（日本側）：2,294 百万円、バングラデシュ人民共和国側：167 百万円）

（３）事業実施スケジュール（協力期間）

2024 年 1 月～2028 年 10 月を予定（計 58 ヶ月）。施設・機材供用開始時（2027 年 12 月を予定）をもって事業完成とする。

（４）事業実施体制

１）事業実施機関

漁業・畜産省バングラデシュ漁業開発公社（Bangladesh Fisheries Development Corporation, Ministry of Fisheries and Livestock）

２）運営・維持管理機関

BFDC 水産センター（Fish Landing Center of Bangladesh Fisheries Development Corporation）

（５）他事業、他援助機関等との連携・役割分担

１）我が国の援助活動

我が国は技術協力プロジェクト「ベンガル湾沿岸地域漁村振興プロジェクト」（2022 年～2027 年）を実施しており、コックスバザール県における水産バリューチェーンの改善が事業の一部となっている。本事業との連携により、水揚げ効率化及び品質が向上した漁獲物の市場流通改善が見込まれ、ホストコミュニティの漁業従事者の生計向上に相乗効果が期待できる。

２）他援助機関等の援助活動

ECOFISH II では BFDC 水産センターで水揚げされる魚の品質保持のための施設清掃や利用者への研修を実施しており、相乗効果が期待できる。また、世界銀行の「Sustainable Coastal and Marine Fisheries Project」（2019 年～2025 年）ではインフラ整備案があるものの、本プロジェクトサイトは対象外となっていることが確認されている。加えて、他の援助機関による実施中の支援は無いため、事業の重複はない。

（６）環境社会配慮

１）環境社会配慮

① カテゴリー分類：B

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構 環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、セクター特性、事業特性および地域特性に鑑みて、環境への望ましくない影響が重大でないと判断されるため。

③ 環境許認可：本事業は、同国国内法上、環境影響評価（EIA）の実施対象に該当しない旨、環境局（コックスバザール）及び BFDC 本部により確認された。

④ 汚染対策：大気汚染、水質汚濁、騒音・振動について、工事中は散水、汚濁防止膜等の設置、工事時間の制限・近隣への周知等の対策をとることにより同国国内及び国際的な基準を満たす見込み。水質汚濁について、供用時は浸透柵と浄化槽を設置することで、固形物の除去と汚水処理を行い、汚水の流出を防止する見込み。

⑤ 自然環境面：事業対象地域は近隣域の既存市街地等を含め「生態学的に重要な地域」（Ecologically Critical Areas: ECA）に指定されているが、BFDC 水産センターの活動は同国国内法に基づく規則「生態学的に重要な地域管理規則」に規定される禁止活動に該当しない。よって本事業の実施にあたり、追加の許可の取得は必要ないことを確認している。また、国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。

⑥ 社会環境面：本事業は、既存の BFDC 水産センター敷地内での施設整備となる。敷地は BFDC 所有であり、入口と川側以外は隣地と境界塀で区切られている。本事業実施にあたっては、新たな用地取得および住民移転は伴わず、代替地への一時移転もない。水揚活動は、敷地内を工事エリアと水揚げエリアに区分した上で水揚活動を継続する予定である。また工事中の水揚げエリアの荷捌所等の施設は、BFDC の費用負担により準備される。

⑦ その他・モニタリング：本事業では、工事中は工事請負業者および実施機関が、大気質、水質、廃棄物、騒音・振動等について、供用時は実施機関が水質、廃棄物についてモニタリングを実施する。

（７）横断的事項：本事業は、気候変動の影響を考慮に入れた水産施設の整備等を行うものであり、気候変動適応策に資する可能性がある。

（８）ジェンダー分類：

【対象外】■GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

＜分類理由＞調査にて社会・ジェンダー分析がなされたものの、ジェンダー平等や女性のエンパワメントに資する具体的な取組や指標等の設定に至らなかったため。なお、女性の利用者（小売業者）等の利便性を勘案し、女性用トイレ等の設置を行う予定。

- (9) その他特記事項：災害に強く安全性の高い本邦企業の施工技術の活用、例えば災害強度を高めた係留施設の構造設計や、工事と水揚げ活動が同じ敷地内で行われることから必要となる複雑な工程管理など、我が国が本事業の実施を支援する意義は高い。

4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2022 年実績 値)	目標値 2030 年（事業完成 3 年 後）
水揚げ漁船接岸隻数（隻／日）	20	60
漁獲物の水揚げ場滞留時間（時間）	4	2
鮮魚洗浄利用水の大腸菌群数 (Total Coliform CFU／100ml)	河川水 (バツカリ川) : 88	深井戸の水 : 0

(2) 定性的効果

- 1) 漁船の水揚げ待ち時間の減少、水揚げ・荷捌時間の短縮による施設利用水産業従事者および零細漁民の労働環境の改善（BFDC 水産センター利用漁船全体の約 8 割が船籍をホストコミュニティが存する郡に置いており、多くのホストコミュニティ住民が漁民や漁業関係者として BFDC 水産センターを利用している）
- 2) BFDC 水産センターを利用する漁船のチャットグラム等の代替水揚げ地の利用頻度の減少
- 3) 水産物の品質が向上及び流通水産物の損失減少
- 4) コックスバザール県の水産業従事者の生産性向上

5. 前提条件・外部条件

(1) 前提条件

特になし。

(2) 外部条件

大規模ストライキ等による長期間にわたる行政機能の低下がないこと。
また、治安状況が悪化しないこと。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

カメルーン共和国向け無償資金協力「零細漁業センター整備計画」（評価年度

2010 年) の事後評価では、センター内の食堂での漁獲物の提供が間接的効果として対象サイトの観光地化に貢献しているとされている。本事業では上記教訓を生かし、観光客の取込みおよび広報効果向上のため、鮮魚荷捌棟の上階に観光客用フードコート・見学デッキを設けた。これらの設置により BFDC 水産センターの収入源の増が見込まれる。

7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、コックスバザール県の水揚場等施設及び関連機材等の整備を通じて漁獲物の水揚効率の向上や漁獲物の品質向上を図り、同県の水産業従事者の生産性向上と流通水産物の損失減少、ホストコミュニティの生計向上に資するものであり、SDGs のゴール 1「あらゆる場所であらゆる形の貧困を終わらせる」、ゴール 2「飢餓を終わらせ、食糧安全保障と栄養改善を達成し、持続可能な農業を促進する」及びゴール 14「持続可能な開発のために海洋、海、海洋資源を保全し、持続可能に利用する」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

4. のとおり。

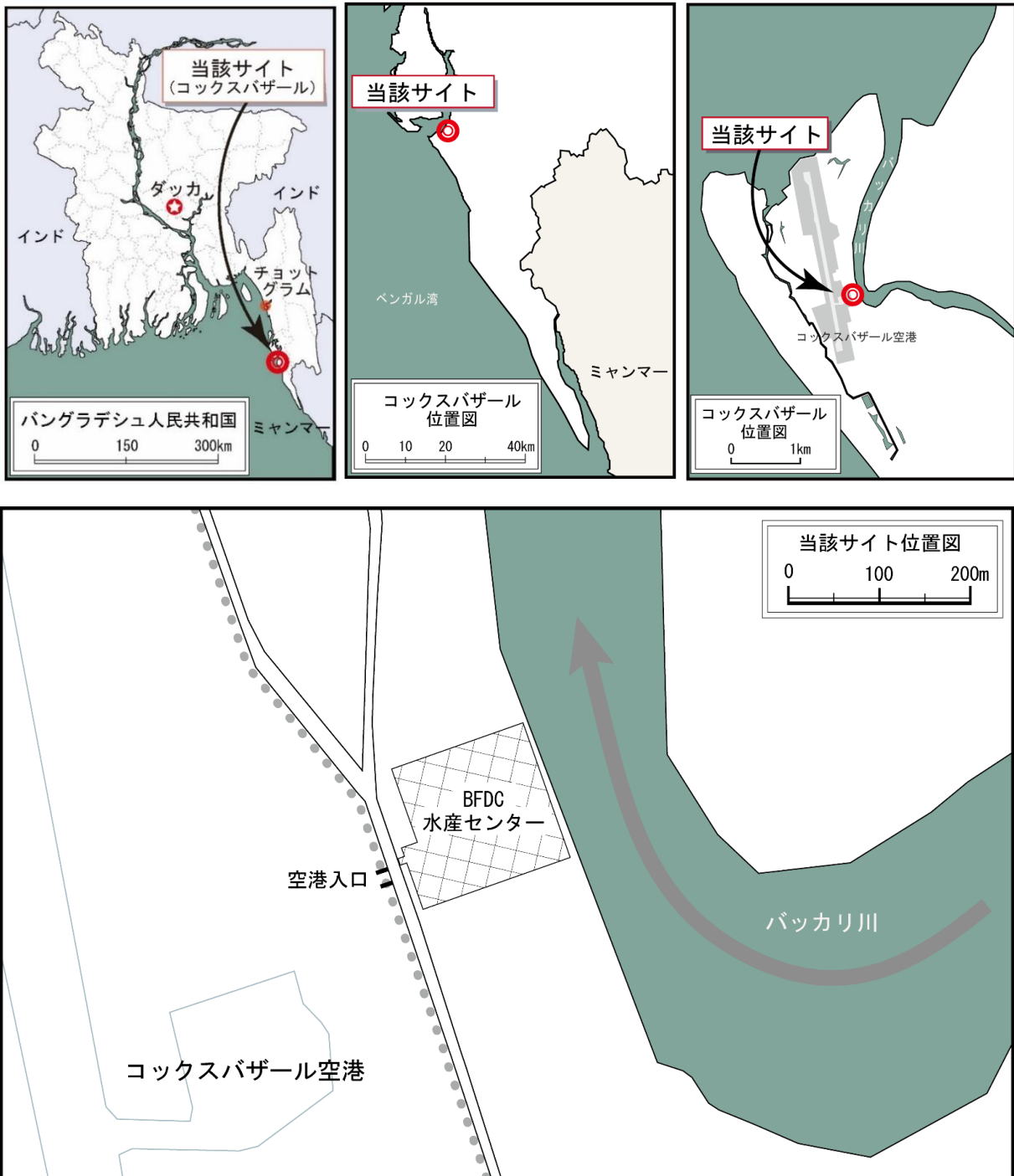
(2) 今後の評価スケジュール

事業完成 3 年後 事後評価

以 上

別添資料 コックスバザール県におけるバングラデシュ漁業開発公社水揚場整備計画 地図

コックスバザール県におけるバングラデシュ漁業開発公社水揚場整備計画 地図



出典：コックスバザール県におけるバングラデシュ漁業開発公社水揚場整備計画準備調査
団作成